

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第14回

香川県高松市消防団

今回は、香川県の高松市をお訪ねしました。
香川といえば、やはり「うどん」のイメージが強いですが、最近は「うどんだけじゃない」というキャンペーンも、やっていますよね。

高松市では防災に力を入れていて、消防団員が相当数増加したことにより総務大臣から感謝状が贈呈されたそうです。

今回は、団員確保のための取組や、これまでの消防団の活躍、防災対策などについてお尋ねしたいと思います。

それでは、高松市消防団の中野幸則副団長、中桐浩代部長（広報指導分団）、高松市消防局の上久保哲行次長の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、上久保次長、中桐部長、ダニエル・カール、中野副団長（高松市消防局で撮影）

高松市と消防団の概要について

ダニエル まず、高松市の概要についてご紹介いただけますか。

上久保次長 高松市は、北は瀬戸内海に面しております、瀬戸内海国立公園でたくさん島がある多島美で有名です。人口は42万を超え、面積も375平方キロメートルにまで至り、平成17年の合併でかなり大きくなりました。

気候は比較的温暖ですが、雨がちょっと少ないのがネックですね。夏場はよく水不足になるのですが、それ以外は台風災害も少ないですし、本当に暮らしやすいまちです。

ダニエル 災害も少なく、温暖で、本当に住みよいところですね。カリフォルニアに似ているような気がします。年中わりとあったかいし、海にも面して、山もある。ただこっちに砂漠はないですね。そこが大きな違いですね(笑)。ありがとうございます。では次に高松市消防団の概要について教えてください。

上久保次長 現在、高松市の消防団は、市内を8つの方面隊に分けておりまして、全部で35分団あります。それ以外に消防団本部直轄で、女性が中心となって活躍される「広報指導分団」と、大きな災害があった時に避難所運営等を行うという業務を特定した「機能別分団」の2つの分団があります。

ダニエル 機能別分団ですか。

上久保次長 はい。香川大学の学生さんで構成されている分団です。大学生の皆さんは「機能別分団員」として、すべての災害には出動しないのですが、大規模災害が発生した時には出動して後方支援という特定の役割を担っていただきます。この「機能別分団」は昨年結成されて、消防団員数を100名増やすために、定数も改正

しました。

団員確保のための取組について

ダニエル 今年の7月に消防団員が相当数増加したことにより感謝状が贈呈されたそうですね。

上久保次長 先程少しお話ししましたが、大学生の皆さんにたくさん入団していただいたので、総務大臣から感謝状をいただきました。



感謝状を見るダニエル

ダニエル それはすごい。おめでとうございます。全国的にも団員さんが減っている中でねえ。

上久保次長 はい。大学生の皆さんが地域の防災訓練などにも参加しています。大学で「防災士」という資格をとる勉強をされている方が多いので、「即戦力」といいますか、住民に指導するところでも期待をしています。

ダニエル 大学で勉強して実践しているわけですね。逆に言うと、他の団員さんへ教えていただけることもあるかもしれないですね。

上久保次長 そうですね。授業でいろいろ勉強されていることですからね。

ダニエル お互いに仲良くやっていければいいですね。この新しい取組で団員数が増えて、

今、団員さんは全部で何人ですか。

上久保次長 定員で決まっている枠が1,710名で、現在の実員は機能別団員の皆さんも含めて1,600名弱です。今後は、高松市内の他の大学にも声掛けをしていこうと考えております。



機能別分団結成式の様子



機能別分団員の活躍（高松市震災訓練において）

「広報指導分団」について

中野副団長 高松市の女性消防団を紹介させていただきます。

ダニエル お願いします。

中桐部長 今までは消防団本部の女性消防団員の集まりといった形だったのですが、新たに「広報指導分団」という名前を付けていただきまして、現在、38名います。

ダニエル どういう活動をされているのか教えてください。

中桐部長 女性ならではの活動ということで、一人暮らしの高齢者のお宅に「防火診断」という形で訪問しています。一人暮らしの高齢者は

女性が多いので、女性の消防団員のほうがいろいろとお話をしていただけることが多いんです。

ダニエル そうですね。女性団員が訪問した方が話しやすいでしょうね。

中桐部長 男性団員は訓練を通じ、女性団員はこのような訪問を通じて地域の方々と触れ合い、そこでまたお互いに情報共有をして、一緒に活動する形をとっていますね。あとは平成16年以降、未曾有の災害対策を強化していますが、未曾有の災害時には消防団員だけでは対応ができないので、女性団員は災害予防として、家庭にいる女性や子供に「自分の身は自分で守りましょう」、「誰かが来てくれるのを待つのではなく自分である程度できるようになりましょう」ということを救命講習や地元の防災訓練で教えています。子供にも「これだけはやってね」とか、ちょっとケガをした時の止血方法などを教えています。

ダニエル それが「広報指導分団」ということですね。

中桐部長 広報指導分団のトップがこちらの副団長なので、連携は常にとっています。市内の全部の訓練等や、出初式にも一緒に参加させていただいております。やはり今、避難所運営は男性団員や防災士の方がやっていますが、日中は片付けなどに出しまうと、お年寄りや子供がどうしても残るので、女性でできることを考えて増やしていこうかなと。

ダニエル よく女性団員さんたちが、幼稚園を回ったりとか、子供たちに防火・防災の知識を高めるために紙芝居をしたりしていますね。

中桐部長 紙芝居はうちもやっています。「地震が来たら自分で身を守りましょうね」ということを教えています。

ダニエル 「地震が来たら机の下に隠れましょうね」とかですね。昨日、岩手県の宮古のほうで話をしてきたんですよ。地元の高校生で未来の防災士になるようタイプの子たちが、町の模型をつくり、機械で津波を発生させて「津波が来たらうちの町のどの辺がやられるか」をわかりやすく地元の小学生に見せて、防災の話などをしているんですよ。高校生がやってるんですよ。すごいなと思って。工業高校なので、模型を作ることは授業なのですが、自主的に小学生に教えているんです。彼らは「相手が小学生だからわかりやすく言わないといけない」と、気象現象など難しいことは言わず、模型で見せて「近くて高いところへ逃げなさい」と繰り返し教えているんです。小さい子供にも「近くて高いところ」と、もう夢にでも出るくらい何回でも声に出して教えるんですよ。

中桐部長 すごいですね。

ダニエル 小学生には、おもちゃとか、目で覚えてもらうんですよ。そういうのもまた広報指導の皆さんのすごく大事なところですよ。

中桐部長 そういう活動をするとう員さんも増えていくんですよ。普通に男性団員と同じように礼式とか操法訓練とかそんなことばかりしていたら入ってこないのですが、紙芝居などあんまりきつい練習しなくても消防団活動ができるとなったら、参加率は上がると思います。



対談の様子



広報指導分団の活躍（連合演習において）

平成16年の大雨災害について

ダニエル 高松市はあまり災害がないと伺いましたが、過去に消防団が活躍された印象的な災害について教えていただけますか。

中野副団長 今から10年ほど前ですが、平成16年8月30日に台風16号が来て、高潮災害によって住民の方が相当の被害を受けました。我々の地元でもボートで救助に行きましたけど、胸のところまで水がありましたね。ボートにお年寄りを乗せて避難所へ連れて行ったり、病院へ連れて行ったりなど、対応しました。

ダニエル 高松市近辺の地形的な特徴はよくわからないのですが、街中は平地なんですよ。

中野副団長 海からだんだん南の山のほうに向いていくと上りになるんです。

上久保次長 海岸部は、地形的に低いんです。当時はちょうど潮の干満が大きい時期で、台風が来たのが満潮の時だったんですよ。それで潮位が通常より1m以上高くなって、気が付かないうち海岸を超えて、平野部の低い所が全部水に浸かってしまったんです。家の中で孤立してしまった方もでてきました。1階部分は水に浸かってしまって2階に取り残されたような人を、ボートなどを使って避難所まで搬送し、70名以

上の方を救出しましたが、残念ながら2名の方がお亡くなりになりました。建物の1階にいらっしゃった方と、車が水没して出られなくなって亡くなった方でした。

中桐部長 6,093戸が床上浸水、9,400戸が床下浸水の被害を受けています。

ダニエル 元の生活に戻るまでやっぱり大変でしたよね。

上久保次長 大変でした。台風が去った後、すごい量の廃棄物、ゴミが出ました。その処理のために消防団員の方が活躍されました。まさに人海戦術で、手で持ったり、リヤカーや一輪車に載せて運ぶとか。狭いところには車が入りませんから、人の手でないとダメなところは、もう本当に消防団員の方が尽力されてましたね。

中野副団長 特に、畳を出すのが大変でした。畳1枚でも、1人や2人では難しく、5人でも重いくらいでしたね。

ダニエル わかります。水浸しですからね。当時は8月末ですよ。台風の後には蒸すし暑い。これはきついですね。

上久保次長 はい。臭いと湿気で大変でした。

ダニエル 考えるだけで嫌になりますね。

中野副団長 そこでやれやれと思ったら、10月20日に大雨が発生して、また被害を受けまして。

ダニエル えっ、同じ年にですか。

上久保次長 台風23号です。今度は、高潮はなかったのですが、川が至るところで決壊しまして。

ダニエル じゃあ、同じ年に2回も。

上久保次長 はい。台風が来ても香川県だけを避けていくということが多いのですが(笑)。その年に限っては、2回も大雨災害があったんです。

ダニエル やっぱり嫌になってしまいますよね。でも、皆さん、よくがんばられた。ニュースで流れるのは、最初の1日か2日間ですよ。[大雨が降った、台風が来た、町がこんなにやられている]など。でも、その後の細かい片付けなどはなかなか報道されないですよ。

中野副団長 片付けが大変なんです。団員の皆さんは本業において、大体1週間は完全にこの作業に集中していましたね。

ダニエル おつかれさまでございました。でもこの年だけが例外ですよ。

上久保次長 毎年あったらもう大変なこと(笑)。この年は、2回も大きな水害があった珍しい年でしたね。



被害状況



後片付けの様子

防災対策について

ダニエル やっぱりこちらの消防団は、訓練的にも組織的にも一番準備しないといけないのはこういう川の水害ですか。

上久保次長 そうですね。山林火災、通常の住宅火災ですと、私たち消防職員だけでなんとか対応できるのですが、大規模な自然災害になると、絶対、消防団の方がいらっしやらないと、職員だけでは、どうしても間に合わなくなりますね。

ダニエル 訓練はどのように行っていますか。

中野副団長 日常的に日曜日に各方面隊で、すべての訓練をいろいろとしていきますので、分団同士、団と消防局・消防署の連携がうまくいっています。最近、デジタル無線を各分団にひとつずつ渡していただきまして、無線で連絡を取りあえるようになりました。

ダニエル だんだん良くなっているんですね。訓練もばっちりですか。

上久保次長 スケジュールも年間で決まっています、この時期にはこの訓練、というように、たくさんの団員の方が集まって行う訓練が定期的にあります。山火事の訓練であるとか、津波を想定した訓練もやります。いろんなパターンでやっています。

中野副団長 我々は第一方面隊なんですけれども、地域密着型のコミュニティを通じて、各町々の自主防災訓練全部に、消防団が日曜日ごとに出ています。これは我々の地域で「お互いに顔を知り合って、災害の時には助け合いましょう」という意識を持って、緻密にやっております。

ダニエル なるほど。地元との付き合いを大事にして、「この家には誰が住んでいる」とか「このおばあちゃんが一人暮らし」といった情

報を把握できるようにしているわけですね。

「絆」は、災害があったからではなくて、災害の前から「絆」というものがなければ駄目なんだなと、つくづく思うようになりましたね。やっぱりコネクション、ソーシャルネットワークというものについては、地元の消防団員さんが一番得意じゃないですか。なにか仕事をやりながら、近所付き合いでも。

中野副団長 そうですね。地元の方も消防団の真似ができるように、消火栓から水を出せる訓練をこれから教えていこうかなと考えています。

ダニエル 近所付き合いというか、地域付き合いですね。

中野副団長 そのような地域の方と知り合ったら、消火栓をとるのも、消防団も早くなるということですね。



林野火災訓練



出初式の様子

最後に～高松市消防団のPRなど～

ダニエル 他にも高松市の消防団についてPRしたいことやご自慢のことがあればお聞かせください。

中野副団長 高松は離島が多いところで、平成23年1月から救急艇を運用するようになりました。その救急艇が出る場合は、地元の消防団員が消防局からの通信指令を受けまして、すぐその患者さんの家へ行って港まで運び、救急艇が港まで来たら連携して乗せるようにしております。救急艇には、「せとのあかり」という名前がついています。



救急艇 「せとのあかり」

ダニエル 早そうな船ですね。

上久保次長 20ノット以上は出ますね。

中野副団長 特に夜中は、道が入り組んだところでも、地元の消防団であれば、すぐわかりますから。小さい搬送車を用意しているので、その車に乗せて港まで連れて行きます。これは24時間体制でやっています。年間80件ほど、出動要請があります。

ダニエル なるほど。

上久保次長 出航から10分くらいで島まで行けるので、その10分の間に消防団員の方に患者さんを港まで連れて来ていただき、すぐに乗せて

市内の病院のほうへ運ぶという体制をとっています。

中野副団長 消防局・消防署と消防団との連携プレーでやっています。

ダニエル すばらしい。いい連携がとれているんですね。

上久保次長 あ、もうひとつだけ自慢してもいいですか。

一同 (笑)

上久保次長 消防団の分団が各地域にある中で、消防団が活動や待機をする場所として「消防屯所」というスペースがあるのですが、その一角に飲料の自動販売機を設置しました。この自動販売機は「消防団員応援自動販売機」というものでして、この販売機の売り上げの一部を消防団の活動資金にさせていただけるということになっております。また、大規模災害時には、自動販売機内の商品を無償提供いただけることになっています。

ダニエル えっ。この自動販売機を管理している会社からですか。

上久保次長 はい。四国コカ・コーラボトリング株式会社から「売り上げの一部を消防団の活動に使ってください」ということで寄付をいただいています。こちらが提供した場所に自動販売機を置いて、その売り上げの一部を消防団活動に使ってくださいということですね。自動販売機には、「消防団員募集」のポスター等を掲示しておりまして、広告塔のような意味合いもあります。

ダニエル へえ。

上久保次長 今回は、私ども高松市消防団と地元の企業である四国コカ・コーラボトリング株式会社が協定を結びました。今後、消防団の

敷地内にさらに増やしていく予定です。設置台数が増えて、売りが上がっていくと、その何パーセントかのお金が、「消防団の活動に使ってください」ということで寄付いただけるような形の協定を結んでおります。

ダニエル 面白いですね。このような取組は、全国的に珍しいのではないですか。

上久保次長 香川県では初めてですね。どこか他に取り組んでいる県もあるとは思いますが。

中野副団長 大規模災害時に、在庫として残っているものはすべて無償提供していただけるということですので、ありがたいですね。

ダニエル なるべく災害がないようにお願いしたいところですが、心強いことですね。



「消防団員応援自動販売機」と協定締結の様子

ダニエル では最後に一言お願いします。

上久保次長 高松市は非常に災害が少ないところですので、住民の皆さんの災害に対する意識が低い傾向にあります。消防団員の方々を中心に各地域で活動をPRして、防災の意識を高めていきたいと思えます。消防団員の皆さんは、普段からいろいろな訓練もしていますので、「なにかあった時には任せてください」という意気込みを持っておられると思っています。

ダニエル ありがとうございます。

対談を終えて

高松市を訪れたのは8月下旬。まだ残暑が厳しい中、平成16年の大雨災害では消防団員の皆さんがご尽力されたことを考えると、本当に頭が下がります。

終始、和やかな雰囲気でお話を聞くことができ、皆さんの仲の良さが伝わってきました。

団員同士はもちろん、団と地域がうまく連携している様子で、頼もしいですね。

しっかりと訓練もされ、大学生など多くの若い世代が参加されているようですし、心強いですよ、未来は。これからも力強く地域の輪をつなげていってください。

高松市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。(ダニエル・カール)



高松市の市街地の風景